

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

B U N K A T S U S H I N

2024冬 No.124



郷土の誇りは人が育む

今年度の財団賞は、高松藩の泳法を伝承する「水任流保存会」と「櫃石ももて祭保存会」の皆さんに授与させていただきました。人から人へ地域の伝統を繋いで行くのは、同時に地元に対する誇りを育む事に繋がると 생각합니다。また、助成金事業は、郷土に新たな文化を創るチャレンジを志す人への後押しとなればという理念で継続しています。あなたも是非、挑戦して下さい。

- 名残の茶会
- 第10回 あ・うんの数寄講座
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習(後半)
- 12月から2月までの茶華道情報/財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL(087)826-3355 FAX(087)826-2212
2024年冬号 No.124 12月1日発行(季刊)

五年ぶりの再会

「名残の茶会」

濃茶 谷松屋戸田 式玄庵 戸田貴士氏

薄茶 武者小路千家 随縁斎 千宗屋宗匠

令和六年 十月二十七日

一六四二年に松平頼重公が高松藩に入府されて以来、一翁宗守に始まる武者小路千家が、幕末まで代々茶頭を務められました。そうしたご縁もあり、昨年の師走、十四世家元の不徹斎宗匠に釜を掛けていただきました。

また、次代を担われる宗屋宗匠には、コロナ禍以前より年に一度くらいのペースで、いつも楽しいお茶会を開催していただけてまいりました。

コロナ禍以降、茶の湯の世界も様変わりして多くのお茶会の機会が失われました。本来は回し飲みで一座建立を目指していた濃茶の席でも、マスクで席入りして各服点てになったり、今だにその後遺症を残したままの状況だと思います。

そのような中で今年は、やっと久しぶりに宗屋宗匠をお迎えしてお茶会を開催できる事になりました。まさに五年ぶりの再会でした。そして、通算七回目となります宗匠の今回のご趣向は、茶の湯がもつとも侘びの趣を深める「名残の茶会」とされました。さらに、新たな試みとして、宗匠が薄茶席を初めてご担当され、濃茶席は大阪の谷松屋戸田商店の戸田貴士社長が席主をされる事になりました。



中條文化振興財団

再会 名残の茶会 会記

時 令和六年十月二十七日
主 谷松屋戸田 式玄庵
戸田貴士

濃茶席

寄付

床 眠翁道安 短冊 直齋箱

しらざりき 暮ゆく秋にさそわれて

人の別れのかくあらんとは

香合 堆黒宝船 藤田家伝来

炭斗 唐物脛当

羽帚 青鸞

火箸 鉄立菱繫象嵌

銀 七宝銀象嵌

釜敷 藤組 紹鷗所持 覚々齋箱

灰器 雲華

灰匙 朝鮮

菘盆 唐物手付

火入 黄瀬戸竹節

蓑入 青貝

煙管 銀杏

本席

於 美藻庵

床 雲州葦帳 筆 布袋図 愚極知慧 贊 暮雨庵伝来

胡直夫 垂手入市塵眼中絶

凡子布袋打矢時收得

主杖子長汀你有主

杖子我興你主杖子

浄慈仏心愚極之慧賛

表具 一風 紫地印金

中廻 白地印金

上下 空色絹

花入 鍍金経筒 団家伝来

花 枯蓮

釜 山梔 宗和所持

風炉 鉄欠 浄味箱

敷瓦 織部

水指 朝鮮唐津

茶入 唐中継 朱

与次郎作

た。谷松屋さんは松平不昧公ゆかりの道具商として三百年以上の歴史をお持ちで、現会長の戸田博氏には、樂吉左衛門氏と共に以前から何度か高松においでいただき、沢山のことを教えていただきました。

財団でも、気持ちも新たにお迎えできるように、茶室の畳を全て新調いたしました。この度の畳替えでは、四国の茶室という事で高知で生産された畳表を採用いたしました。

さて、いよいよお茶会の準備が始まります。前日は、宗匠のご一行は東京から、谷松屋さんの皆さんは大阪から車で到着されました。更に名古屋や福岡からも援軍が到着されて、道具の準備と設えが始まりました。こうした瞬間を拝見するのは、本当にワクワクします。久しぶりにお会いする方も多く旧交をあたためる時間にもなります。

筆者も、恐れ多い事ながら、点心席の担当を拝命する事となったので、立礼席の床に並べられる事になった炭道具や煙草盆、また、席中のお道具の箱書きについて、勉強させていただきました。

宗匠によりますと「こうした炭道具は、その茶席の本気度を見られるので、決して手を抜いてはいけません」とのことでした。床前に集まってそれぞれの道具について検証しながら、次第にチームがまとまっていく感じとなりました。濃茶席の床や薄茶席の床が、整ってくるのと茶席の緊張感がいよいよ増していくのを感じました。

当日は、いつもながら宗屋宗匠のご配慮が行き届いたお茶席となり、大変感謝申し上げます。



袋 利休間道 小堀権十郎箱 松浦家伝来
茶碗 瀬戸黒 銘 有明 直齋箱 平瀬家伝来
帛紗 太子漢東 木津宗詮箱 前田家伝来
茶杓 本阿弥光甫 共筒 銘 谷風 竹田黙雷箱

蓋置 古竹 不昧在判
建水 木地曲

御茶 仙家の昔
菓子 山土産

器 縁高

薄茶席

主 武者小路千家

隨縁齋 千宗屋

於 晴松亭

床 真伯一行 大方無外露 円相 松齋宗詮箱 平瀬家伝来

花入 古瀬戸 雁口

花 ほととぎす 野菊 水引き

香合 存星柚子 平瀬家伝来

釜 芦屋筒 兔地紋 竹節銀付 清岩寺在銘

風炉 唐銅丸 兔銀付

水指 法花蓮弁文 平

棚 一啜齋好 自在

先 溜塗反古張 利休文他貼交

茶器 時代 雛菊時絵中棗

替 伝来宗旦手張釣柿写 一啜齋在判箱 愈好齋外箱

茶碗 本阿弥光甫 赤 銘洪柿 直齋箱

替 絵御本 銘松時雨 藤田家伝来

替 乾山菊の絵 半筒

茶杓 直齋 共筒 三夕ノ内 共箱

見渡せば花も紅葉もなかりけり 浦の苫屋の秋の夕暮れ

蓋置 戸田露朝好 兔透かし 共箱

建水 毛織菊形 愈好齋箱

菓子 押し物 紅葉 浄益造

器 玉椿菊花盆 自好 眞吾造

蓑盆 愈好齋好 溜塗葫蘆透し 愈好齋箱

火入 仁清緞部写 藤田家伝来

蓑入 独柴

香箸 菊頭 愈好齋好 吉祥草彫

煙管 一指齋好

点心席

床 酒井抱一 筆 秋草図

以上

茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

第3回 8月4日(日)

「茶席の掛物―墨蹟―」

講師 武内範男(日本文化史研究家)

はじめに

現在、高知で茶花教室をされている武内先生は元畠山記念館の主任学芸員を務められておられました。

弊財団の夏期講習でも前は茶花のお話をしていたとき、今回は2回目のご講演となりました。

講演の最初は、大師会の濃茶の席主から席中の花を依頼されたお話から始まりました。床の掛物は、臨済宗、永源寺派の開祖。寂室元光の墨蹟に合わせるお花。黄瀬戸の花入にハツカレンとシヨウジヨウバカマを選ばれたお話をされました。本来ならば、蛤端の薄板のところ席主の要望もあって、矢筈板を敷かれたそうです。由緒ある墨蹟を床にかける経験はなかなかできないので、何処かの茶席で見ることがあってもその組み合わせの仕方まではわかりませんし、やはり凄いなあと思いました。墨蹟に合わせる花

は、その表具の色に合わせて花を選ぶと収まりが良いとのことでした。

普段お茶席に入って床の掛物を見ても、何が書いてあるのか内容を把握するだけで精一杯で、なかなか表具の細かいところを観察する余裕はありませんが、花をひとつ選ぶのもいろんな事を考え合わせてもらえる舞台裏を教えてくださいました。

床と花

書は人なりとよく言われますが、文字には書いた人の性格や人となりが見えて面白いそうです。

床の掛物の場合、炉は一行、春は懐紙、夏は短冊、秋は文。それに対して花は、炉の季節なら格の高いモノ。春はウキウキと華やかなモノ。夏は暑いのでさっぱりした軽やかなモノ。秋はしみじみと思いを深めてと、時処位を合わせて行くのが基本的な考え方になります。位は位取りの事です。

墨蹟の系譜

茶の湯の墨蹟として有名な圓悟克軍の印可状(流れ圓悟)は国宝ですが、この印可状がドンブラコ、ドンブラコと海を渡って流れて中国から日本まで流れ着い

たという不思議な伝説を持っています。これはおそらく松平不昧公が巧く次第としてまとめたのかも、というお話と、更にこの印可状は二つに分かれて片方は伊達家にあつたという話はあるものの、現在は所在がわからないので、もし何処かで見つかったらひと財産になるかもと、会場を沸かせました。

禅僧の法脈

茶の湯と深い関係にあるのは、虚堂智愚、大応国師、大燈国師に始まる大徳寺に繋がる系譜で、特に個人的で人気のあるのが、48世の一休宗純老師です。侘び茶の開祖でもある村田珠光の師でもありました。

墨蹟の内容は、法語、偈頌、弟子に法脈を授ける印可状、法名を授ける授号。その他、額字、遺偈、尺牘、上堂語、送別の語、詩書などがあります。

例えば、東福寺普門院にあつた「潮音堂」の額字は、無準師範が弟子の聖一國師に贈った額字で、音の字の横に普門院の印があります。その後、小堀遠州が所持し、茶会で懇望された時に一字千金の値を付けた話は有名です。

その他、実例として紹介されたのは、妙心寺を開いた関山慧元に、その師であつた宗峰妙超(大燈国師)が贈った「関山号」は、もともと巻物であつたものを上下に貼り合わせて軸にしたもので、国宝です。

更に、五島美術館所蔵の無準師範の贈



字「茶人」もありました。

また、特に興味深いのは遺偈で、亡くなる時に書いた言わば遺言のような偈ですが、悟りを開いたお坊さんが最後に残す言葉なので、もしこれを集めて本にまとめたら、とても面白いものになりそうですとも話されていました。

茶席の掛物

『源流茶話』によると、義政公は台子の中に瀟湘八景や、夢窓国師の一字の墨蹟を掛け、珠光も圓悟克軍の法語を掛け、利休に至っては、茶席の掛物は席上の飾りではなく、その語味を賞し、絵蹟は許し、絵ばかりは無用と定められました。更に『南方録』では、掛物ほど第一の道具はなし、墨蹟を第一とし、その文句の心を敬い筆者の徳を賞翫するなりとあります。また、『宗春翁茶湯聞書』では、文字は第一、紙新敷が第二。第三は四方にらしい。らしいは周りの余白の事。

第四に欠行欠文字。第五に名判と印（落款）。第六肝要は、丈、亘、此の良きを本とする也とあります。

破れ虚堂（法語）

虚堂智愚の法語は、南浦紹明より大徳寺に伝わり、武野紹鷗から京都の豪商大文字屋が所持している時に使用人の八兵衛が法語を破ってしまったのでこの名前がついた。和紙の破れは修復されて、やがて松平不昧公が長く所持していました。『松屋会記』の記述では、その表具の裂地の種類や紙の寸法。文字数やその余白の寸法。更には掛物全体の丈や床にどのように掛けてあるのかまで詳細に記録されています。

茶席でそんな鑑賞の仕方があるのかと気が遠くなるような感じですね。

終わりに

宗峰妙超の法語は、右から書いて、行の頭が少しずつ左下りになっています。これは、法語を書き慣れた老師がその思いを一気に書き上げると、そうした傾向が見られるとか。

一休宗純の墨跡は自由奔放で開放的で親しみが持てるので、大人気。中でも有名な一行「初祖菩提達磨大師」は珠光が表具をされたのですが、掛物が長過ぎて床に入らなかつたので、床の天井を上げる事になったとか、面白いエピソードも沢山教えていただきました。

最後は表装の裂地について、実物を見

ながら説明していただき大いに盛り上がりつつ講演が終わりました。（中條晴之）

第4回 8月24日（土）

「茶席の和菓子で楽しむ」

講師 鈴木宗博

（裏千家教授、和菓子研究家）

第四回目の講座は幕府御用菓子司である鈴木越後を先祖に持ち、先々代の頃より裏千家茶道を学び、代々和菓子に精通され京都の和菓子を研究され続けている鈴木宗博先生です。

茶会や茶事には様々なものが存在します。日常的に行われている茶事にも各種ありますが、そのほかにも神仏や御霊に茶を供える献茶式添釜、月釜や市民茶会などの大寄席茶会、御園棚や点茶盤などによる立礼、厳密にはお茶会とは違いますが御来客をお茶でおもてなしする呈茶などがあります。

それらに欠かせないのが茶菓子です。その菓子の選びも亭主のおもてなしの大切な要素です。主に茶席では薯蕷饅頭やきんとん、餅菓子、季節によっては花見団子や月見団子、粽、水無月などの生菓子の主菓子と落雁、煎餅、有平糖などの干菓子が多く選ばれます。それらは趣向や季節にあつたもの、銘のあるもの、食べやすさや取りやすさ、菓子器にあつた色合いや大きさ、また他に茶席がある場

合は重ならないもの、当世ならではの配慮としてアレギーや着色料にも注意が必要です。そして予算も重要な要素の一つです。

それらのことを考慮して菓子を選ぶ時に何を重視するかも亭主のセンスが問われます。甘すぎず余韻のある心地よい甘み、口溶けがよく皮と餡の調和のあるものが好まれます。そしてその上で重視したいのが趣向や季節のあつた菓子を選ぶことでしょう。それには銘、形、色彩が大切な要素になります。しかしそれらにこだわりすぎるともはや食べるものではなく見るものになってしまう場合があります。

先に書いた来客をおもてなしする呈茶の中でも、お友達がご自宅に遊びに来た時や、会社などのご来客にお茶菓子として出すのであれば「こんな珍しいものがない手にはいりました」と美しい菓子をお出しするのもよいと思います。茶会や茶事にはそれなりの趣旨があり、それにあつた菓子を提供することが大切です。

たとえばお正月の初釜の定番は花びら餅です。これは平安時代に宮中で行われていた正月行事の一つで、長寿を願う天皇に固いものを謙譲する「歯固めの儀」が元になっています。円形に薄くのぼした白い求肥に、紅色をした求肥と白みそあん、甘煮にしたごぼうを乗せて二つ折りにしたものです。亭主がお客様のこの一年の無病息災を祈って出される菓子です。



その他には春には季節を呼ぶ声が聞こえてきそうな鶯の主菓子、夏には寒天や水ようかんを使った涼しげな水菓子や、一年の残り半分の無病息災を願った水無月、秋には月見団子という風に定番の菓子があります。

茶道具には様々なものがあります。掛物、花入、香合、釜、茶入れ、茶杓、茶碗、水差、蓋置、建水、柄杓、茶筌、炭斗、帛紗、古帛紗、懐紙、それに花を添えるのが茶菓子と考えて間違いないと思います。

鈴木先生は新しい菓子も色々考えておられるそうです。時には菓子職人に無理難題を提案され、数の少ない茶席の場合にはとんでもない金額になることも。それでも新しい菓子を考え、ふるまう事がとても楽しいそうです。

六十回を超える「お菓子な話」。鈴木先生の講演が決まって一番に手を挙げて取材させていただきました。これまでの

お菓子の話は間違ってたのか？そんな思いで講演を聞かせていただいで少し安堵しました。いつ食べるか、誰と食べるか、そのお菓子それぞれに物語があるということが大切なのだと思えました。これからもっと面白いお菓子を提案させていただきますと思います。

(香川二郎)

第5回 8月25日(日)

「益田三兄弟(鈍翁、非黙、紅艶)について—人と茶道—」

講師 岡田直矢(茶道研究家)

明治政府の近代化施策に沿った民間の実業家たちの活躍には目ざましいものがありました。なかでも益田三兄弟には経済界の重鎮、華々しい成功者という名声のみならず、茶の湯の数寄者として古美術品の蒐集における審美眼(目利き)などで近代茶道界をリードするという共通点がありました。

益田家三兄弟とは長兄・益田孝(鈍翁)、次兄・益田克徳(非黙)、そして末弟・益田英作(紅艶)のことですが、それぞれ三井物産や東京海上火災保険会社の創始者となり、今回の話の主人公となる英作は三井財閥系企業の役職を歴任した人物ながら彼には確たる伝記もないことから、私は英作の人生を博士論文にまとめ

ようと研究をはじめました。

今日は「紅艶・益田英作と近代茶道・社会」と題して、珍しい家族写真などを交えながら彼の五十六歳という早逝人生における好事家としての話を紹介したいと思えます。

彼の奇人ぶりはつとに有名で、芝公園近くに住まいしていたので親しい人々から「コーエンさん」と呼ばれ、これを「紅艶」と花柳界好みの字ずらにして乙に構え、また鎌倉の大仏に眼鏡をかけたようにと洋行帰りのスマートさと裏腹な容姿を揶揄されたり、上より下の方が大きい鏡餅をもじって彼等のことを鏡餅三兄弟と世間が噂したとか言われています。

ところがこの人、知人との付き合いに屁理屈をつけて祝儀を出し渋り、香奠に釣り銭を要求したり、実姉の嫁ぎ先を間違え他人宅に上がりこんでの大騒ぎをやらかし、まだまだの武勇伝は、敗者が奢るルールの新年歌留多会で負けが込みだすや庭の池に飛び込んで同席者たちケムにまいて逃げ帰ったとう話もあります。かと思えば、電車の中で突然に下手の横好きと酷評される謡曲を咆え散らかして他の乗客が迷惑がるをもとせせず、吝嗇で傍若無人な言動の数々は文明開化の牽引者、イギリス仕込みのジェントルマンが泣こうというものばかりで、ともかく、傍目構わぬユニークな人だった感が拭えません。

茶事の初陣ともいうべき自宅での茶会で、茶席にキツイ匂いは禁物とされてい

る常識に反して、寄付に到着した客にまづは道中の塵落としとばかり香水風呂をすすめたり、兄の鎌倉別邸においては台湾在任中の風景を再現して台湾人に扮した芸者衆を接待役にした演劇趣向の茶席を設けたり、愛蔵の伊賀播座花入(花入の立派な姿に花は不用と、銘・芙蓉)の披露を所望されて催した東京目黒自邸霊水庵での朝茶席では、火入、香台、水指、茶入、薄茶器、蓋置、茶碗など茶器だけでなく、懐石料理の焼物鉢、酒器徳利、香鉢と伊賀の名器一覽「伊賀揃ひ茶会」に面食らう客にどうだ!とばかりの場面もありました。

それから、懐石毒見事件なる破天荒な茶会もありました。客に運んだ膳の料理を毒見と称して箸をつけ、そのうえ菓子までもたいらげるという無作法ぶり。あまつさえ、なすすべもなく呆れている正客は練り加減の悪い亭主点前の濃茶を飲まされ何とも挨拶の仕様がなかったといいますが、床には佐竹本三十六歌仙絵・坂上是則、茶人は藤四郎の瀬戸糸目、茶杓は松平不味公の作と逸品がならび、さすが紅艶コレクションの面目躍如たるものがあります。

他にも大師会の担当の折には、塹壕に見立てた席を作って戦死者霊位の祭壇を設け、床には元帥・大山巖の揮毫を掛け旅順土産の砲弾筒に花をいけて日露戦争の慰霊を趣向し、別席では黒衣の僧に扮してインド仏の文殊・普賢菩薩像を飾るという敬虔な一面もあつたようです。大

師会とは鈍翁が弘法大師の書「崔子玉座右銘断簡」披露のために始めた茶会で、東の大師会、西の光悦会と日本の茶会の双璧をなすハレの茶席でも、紅艶独壇場ぶりが目に浮かびそうです。

武家社会の礼法だった茶がすたれていった明治という激動の時代で、彼は作法より趣向を観てほしかったのでしょうか。あたかも、時の政府は岡倉天心、フェノロサを擁して、仏像仏具を保護するに彫刻や絵画という捉え方で、祈りの美を茶室に持ち込む紅艶の美術感覚は、凶らずも、政府の方針に沿っていったのではなからうか。

また、茶道とは日本人が各種の美術工芸を鑑賞する一つの方法(逸翁・小林一三)気運の中で、紅艶は単なる横紙破りではなく、茶匠が門人に茶道を教授するというヒエラルキーとは無縁な好事家たちと、互いに、確かな審美眼で選んだ茶道具や古美術の鑑賞を共有して楽しんで人とも思われます。(妹尾共子)



もちもち円座はいかがですか？

高松市円座町の名前の由来である「菅円座」。

様々な植物を使って作られる敷物ですが、この地域では、お遍路さんがかぶる菅笠と同じ「菅(すげ)」と呼ばれる植物を使い、菊の花に似た模様になられ、朝廷への献上品にもなっていたようです。

香川で作られる「菅円座」の最大の特徴は「作り方」にあるようで、別の製法の物と比べると…どこから作り始めて、どこで終わっているかが分かりません。

そんな敷物“菅円座”そっくりの和菓子があるのをご存知ですか？

大きさは一般的な大判焼きくらいですが、少し薄く中央が膨らんでいます。中には程よい甘さの粒あんが入っていて、「菅円座」と同じ模様になっています。



形や模様だけでなく、生地にタピオカ粉を使っているので、食感もちもちしています。

見た目に可愛いそんな“円座焼き”を手にとって「菅円座」を感じてみてください。

お茶の風景(26)

冬のもてなし

異常気象で記録的な猛暑が続いた夏を一段落させて秋の気配と思いきや、足早な寒さ到来。自然の冬仕度はあわただしそうです。

お茶の世界では暦通りの季節に沿って席を改め、衣服や道具、花や菓子などに季節感を反映させたもてなしに感謝する客が、道具の組み合わせに茶会の本意を読み、席の隅々まで気遣ったしつらいつの見事さに感歎の声をあげることも多々ですが、亭主側はこれまでに費やしたくばりの労力や手間を「亭主七分の愉しみ」と謙虚な言葉で表現されます。もてなしの真髄に究極の利他を説く茶道精神の奥深さに、ただただ尊敬と賞賛の思いが深まるばかりです。



ところで、これからの季節、例えば、炉に掛けた広口釜の蓋をきった時の湯気の立ち上がり、点てたお茶が冷めにくいようにと筒茶碗のぬくもりなど、視覚や感覚にも暖かさを演出する光景は、寒さの中、何よりのご馳走となりましょう。

おいでまい香川

香川県内の様々なイベント情報を随時更新中! <https://oidemai.kagawa.jp/>



財団行事予定 (12月~2月) 休館日水曜日

お申込みは財団まで。
急遽中止になる事もあります。

12月

- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日
森本義人先生
12月6日・20日(金)午前10時~12時
- ◆ 茶室 de 若人茶会
12月8日(日)
処 晴松亭(当財団茶室)
席主 大手前高松・丸亀高校茶道部
会費 一般800円・学生300円(茶席2席)
入席時間(各席18名・1時間を予定)
第1席 9時 第2席 10時 第3席 11時
第4席 13時 第5席 14時 第6席 15時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日
高橋初乃先生
12月13日(金)午前10時~12時

1月

- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生
12月14日・28日(土)午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日
12月17日(火)午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
1月10日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
1月11日・25日(土)午後1時~
- ◆ 書道教室 森本義人先生
1月17日・24日(金)午前10時~12時
- ◆ 初釜
今回から財団初釜は第3日曜日とさせていただきます。
「開徑待佳賓 一期一会の心にてお待ちしております」と席主のメッセージと合わせてご案内いたします。
好例の福引もありますのでお楽しみに。
日時 1月19日(日)
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)
濃茶 表千家流 土井宗以

薄茶 表千家流 土井宗友
点心 表千家流 土井宗美
会費 10,000円(濃茶・薄茶・点心席)
入席時間(各席8名・2時間30分を予定)
第1席 9時 第2席 9時50分
第3席 10時40分 第4席 11時30分
第5席 12時20分 第6席 13時10分
第7席 14時

申込 電話受付 12月16日(月)10時~

- ◆ 月に一度の喫茶室
1月はお休みさせていただきます。

2月

- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生
2月4日(火)午前11時
- ◆ 書道教室 森本義人先生
2月7日・21日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生
2月8日・22日(土)午後1時~
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生
2月14日(金)午前10時~12時
- ◆ 月に一度の喫茶室
2月18日(火)午前10時~午後2時(受付)
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)

茶華道ガイド

急遽中止等の変更となる場合があります。

(一財)小原流高松支部 TEL 090-5273-0576

2/23、24 一般財団法人小原流高松支部創立65周年記念花展
いけばな小原流展 花輝く如月
席主：(一財)小原流高松支部 玉藻公園内披雲閣
無料 10:00～17:00(24日は16:00まで)

表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

2/16 高松市茶華道協会 きさらぎ茶会と華展
席主：山内宗紀
大西・アオイ記念財団 1,000円 9:00～15:00

茶道裏千家淡交会香川支部 TEL (0877) 24-3315

12/2 あやうたふるさと祭り茶会 席主：綾歌教授者
アイレックス 400円 10:00～15:00
〈月釜〉多度津町地域交流センター2F 600円 9:30～15:00
12/15 席主：仁信宗和
2/23 席主：村井宗美

茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

〈高松支部月釜〉大西・アオイ記念館 9:30～15:00(時間指定)
12/1 席主：長尾宗里 800円
2/2 席主：川内宗恵 1,000円

茶道石州流琴松会 TEL (087) 888-5311

12/15 大西・アオイ花茶会 席主：茶道石州流琴松会
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00

武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

12/8 香川官休大会茶会 席主：香川官休会
披雲閣 2,000円(二席) 9:00～15:00
〈香川官休会月釜〉無量寿院 1,000円 9:00～15:00
1/26 席主：小池妙公
3/16 席主：霜 妙真

大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

12/15 大西・アオイ花茶会 席主：茶道石州流琴松会
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00
2/9 大西・アオイ高校茶会 席主：大手前高松高校茶道部
大西・アオイ記念館 400円 10:00～13:00
2/23 大西通義を偲ぶ「宗通茶会」
席主：大西・アオイ記念財団
大西・アオイ記念館 1,000円 9:30～14:20
3/2 高松商工会議所女性会 弥生茶会 席主：美澤宗包
大西・アオイ記念館 料金未定 9:00～15:00

高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

〈由佐城月釜茶会〉第2研修室(和室)
前売券700円・当日券800円 9:30～14:30(全6席)
12/15 席主：真子宗博(表千家)
2/16 席主：春日宗愛(表千家 真子宗博社中)

財団からのお知らせ

中條文化振興財団

令和7年度 助成金応募受付中

対象事業

令和7年4月1日から令和8年3月31日までに実施予定の文化事業。詳しくは助成基準をご覧ください。

応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出してください。(HP参照)
応募締切は、令和7年1月31日。

審議委員会による書類審査を行い、必要があればプレゼンテーションを開催。令和7年3月末までに結果をご連絡致します。

助成金

30万円を限度とし、活動に応じた金額を審議委員会が決定致します。

詳細(助成基準、所定の申請書等)は、当財団ホームページよりご確認いただくか、事務局までお問合せ下さい。

<https://chujo-zaidan.or.jp>

編集後記

いつまで夏が続くのかとぼやいていたら、秋を通り過ぎてもう師走。そんな短い秋を惜しむかのよう各地の秋まつりが報道され、帰省した家族連れや観光客の喜ぶ姿が見られました。米不足の心配の中でも、豊作を願い祈る祭りは元氣と喜びをもたらします。

来年は瀬戸内芸術祭も開催され、多くの方が瀬戸内の島々を巡り、その土地の歴史や文化を取り込んで現代アートを鑑賞されるでしょう。そして、そこに住んでいらっしゃる人々との交流も是非していただきたいものです。

幸いにも、近年UターンやIターンのみならず、移住して来る家族も増えていきます。活気溢れる瀬戸内になるようにと願っています。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人中條文化振興財団編集部

TEL(087)826-3355

FAX(087)826-2212

info@chujo-zaidan.or.jp